

## 5.5 定温乾燥技術体系によるいぐさの品質向上

農業研究センター 農業研究所 加工部  
担当者：田中伸昭

### 研究のねらい

中国産畳表の台頭により、更なる高品質化が求められる今日、畳表の材質や色調への影響が大きいとされる生いぐさの乾燥体系を再構築する。

### 研究の成果

- 1) 乾燥後に発生する部分変色茎(テレ・ヤケ)は、乾燥温度の55と70-60の変温体系(以下70)とでは、明らかに55が少なく、品種岡山3号では30%減少する。(図1)
- 2) 一本のいぐさの摩耗に対する強度は、70より55が1割程度強くなる。(図2)
- 3) 一本のいぐさの引っ張り強さは、70に比べ55が4~7%強くなる。(図3)
- 4) 55で乾燥した畳表の色調は、70に比べ緑がわずかに濃くなる。(図4)
- 5) 55で推移した900束規模の乾燥時間は、16時間を要し、慣行の乾燥時間より1~2時間長くなる。(図5)
- 6) 55で推移した900束規模の乾燥燃料は、10アール当たり換算で概ね400リットルであり、慣行とほぼ同等とみられる。(表1)  
(注：使用量は乾燥規模や草質・天候等によって変動します。)

以上のように、55の定温乾燥は、収穫乾燥体系を変更することなく、部分変色茎の減少や材質面の強化が期待できる。

### 普及上の留意点

- 1) 慣行の70-60の乾燥温度体系から、55の定温乾燥への変更にはとまどいがあることから、乾燥の特性をつかむまでは60-55体系などを選択し、徐々に55定温乾燥へシフトすることが望ましい。
- 2) 55定温乾燥の場合は、乾燥むらが発生するとその解消ができにくいので、いぐさの詰め込みは均一に行う。
- 3) 乾燥途中に乾燥むらを確認したら、未乾燥束を取り除き温風の道を作る。

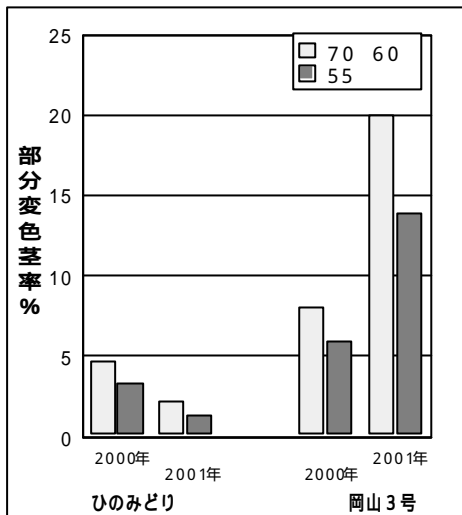


図1 乾燥温度と部分変色茎の発生率

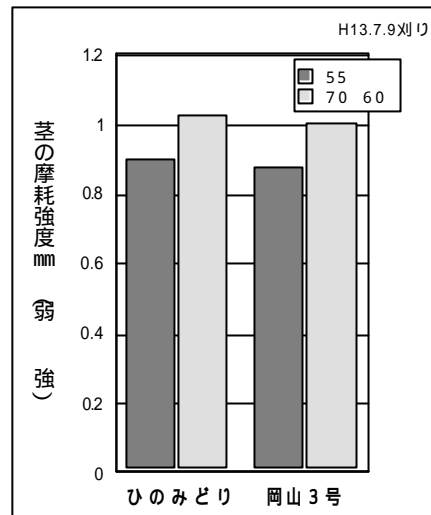


図2 乾燥温度とい茎の摩耗量

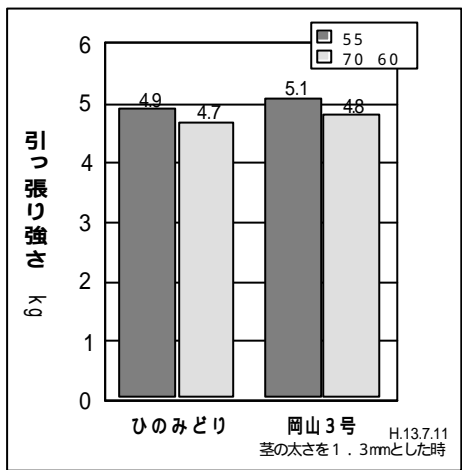


図3 乾燥温度とい茎の引っ張り強さ

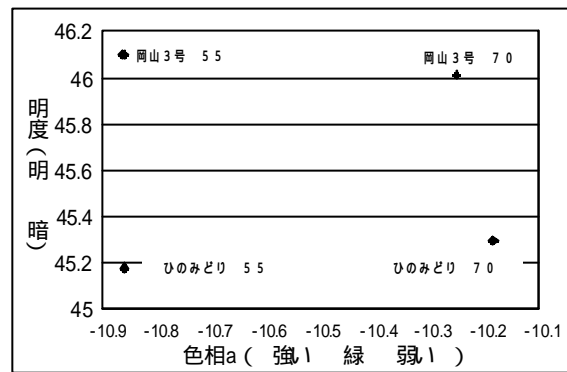


図4 乾燥温度と畳表の緑の強さ

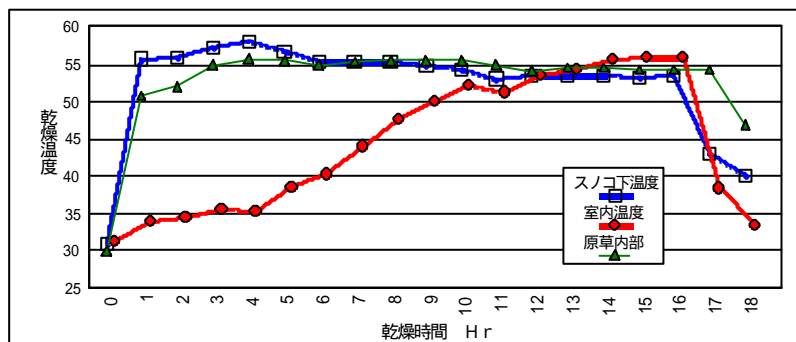


図5 62 58 設定の乾燥温度の推移 (A農家の例)

表1 乾燥温度と燃料消費量

農家	乾燥温度体系	乾燥箱の大きさ	乾燥時間 Hr	1回乾燥束数 束	10a換算燃料 L
A	62 58	9尺 × 4間	16	960	400
B	70 65	8尺 × 4間	13~14	810	458